

(2) 利用促進策の実施方針について

利用促進策の実施方針 (案)

■ 路線バス分科会で事業者から提案のあった利用促進策

支線バス

- 1 お試し乗車券による「バスに乗る習慣づくり」
- 2 鉄道・バス乗り継ぎ割引による「シームレスな利用環境の構築」
- 3 沿線地域への時刻表ポスティングの定期実施
- 4 経済的インセンティブ（買い物券など）導入による「自動車利用からの転換」
- 5 公民館等で高齢者を対象にバス教室
- 6 沿線企業の従業員等への啓発

公共交通全体

- 7 決済環境のICOCA等全国交通系ICカードへの統一と、
定期券のWEB購入サービス導入による利便性向上
- 8 ゾーン運賃制及び金額式定期券の導入と中・長距離の負担軽減
- 9 OKAYAMAハレ活プロジェクトとの連携（バス乗車でポイント付与）
- 10 1日乗車券と周辺部の駐車場料金負担で都心の回遊性向上
- 11 ももちゃりとの連携（バス含めた1日乗車券、バス定期利用者の割引等）
- 12 バスレーンの実効性確保、延長
- 13 パーク&バスライド駐車場の増強
- 14 各社のお客様センターの統合
- 15 利用促進に関する小委員会を設置（月1回程度の定例会）

R8年度実施

R8年度実施
に向けて検討

R9年10月実施
に向けて準備

R9年10月実施
に向けて検討

実施の可能性
について検討

支線バス利用促進策の実施方針（案）

R8年度実施

1 お試し乗車券による「バスに乗る習慣づくり」

- 支線バスは、バス路線のない地域に新設・延伸するため、自動車利用が中心の暮らしから、バスに乗る習慣を形成していくことが重要。
- まずは支線バスを「知ってもらう」「乗って体験してもらう」きっかけを提供し、習慣づくりに向けた取り組みとして、一定期間に複数回利用が可能となるお試し乗車券を配布し、定着に向けた利用促進を図る

■ お試し乗車券（イメージ）



■ 転入者への公共交通情報の提供

オリジナルポリ袋作成



①公共交通マップ



②支線バス時刻表



③お試し乗車券



R8年度の実施方針(案)

- 支線バスが4月と10月に運行を開始するため、**運行中の全ての支線バスを対象に、上半期と下半期にそれぞれ2か月間実施（計4か月）**
※上半期は準備が出来次第、下半期は10月からの実施を想定

<お試し乗車券の配布方法>

- 支線バスの**車内や沿線施設等で配布**
- 岡山市への**転入者に対しても配布**（公共交通マップや支線バスの時刻表とセットで）

支線バスの利用促進策（案）

R8年度実施

2 乗り継ぎ割引による「シームレスな利用環境の構築」

- 公共交通全体の利用促進の観点から、複数のモードを組み合わせ利用を促進するため、鉄道と支線バスを組み合わせる利用する場合の支線バス運賃の割引（50%引き）を試験的に実施。

利用履歴証
(駅発券機で出力)



ウォレットアプリ
(スマートフォン)



実施イメージ

<STEP 1> 支線バス降車時に「直前のJRの利用履歴証」を運転手に提示し、半額割引で運賃を支払う

<STEP 2> 事業者は割引の件数と額を記録し、市に請求
※支線バス利用後のJR利用は「割引なし」

R8年度の実施方針(案)

- 駅に接続する支線バスを対象に、**準備ができ次第実施**
※R9.3月末までの実施を想定

- 駅に接続する支線バス
- F01：妹尾・北長瀬線
 - F02：妹尾・岡南線
 - F03：高島・旭川荘線
 - F04：高島・備前原線
 - F06：庭瀬循環線 <R8.4～>
 - F09：牛窓南回り線 <R8.10～>

3 時刻表ポスティングの定期実施

- 支線バスの運行開始やダイヤ改正等にあわせて、沿線地域に時刻表をポスティング
- また、お試し乗車券等の利用促進策のPRなどにあわせて、運行中の支線バス沿線に対しても、改めて時刻表をポスティング



R8年度の実施方針(案)

- 支線バスの運行開始やダイヤ改正が行われる **4月・10月ごろに実施**
- また、お試し乗車券配布等の**他の利用促進策のPRチラシとセットで実施**

支線バスの利用促進策（案）

R8年度実施
に向けて検討

4 経済的インセンティブ導入による「自動車利用からの転換」

- 支線バス沿線の商業施設等を対象に、支線バスに乗って来店し、一定額以上買い物した利用者に買い物券を贈呈するなど、沿線の商業施設等と連携したインセンティブ導入による支線バスの利用促進を実施。消費喚起や休日の駐車需要の緩和も図る

実施イメージ

<STEP 1>
支線バス降車時に、希望者に「乗車証明書」を
運転手が手渡し

<STEP 2>
利用者は、商業施設で「買い物レシート(一定額以上)」と「乗車証明書」を提示し、買い物券を取得



5 高齢者を対象にバス教室を開催

R8年度の検討事項

- 沿線の公民館等で**高齢者を対象に実施を検討**
- 高齢者の路線バス・路面電車の運賃が半額割引となる「ハレカハーフ」のPRや、バスロケーションシステム（GoogleマップやBusVision）の利用方法の解説などとあわせて実施

6 沿線企業の従業員等への啓発

R8年度の検討事項

- 支線バス沿線の企業を対象に、運行サービス等の情報提供や通勤プランの提示など**自発的な行動変容を促すコミュニケーション施策を実施を検討**（TFP：トラベルフィードバックプログラム）
- 毎年開催する「**スマート通勤おかやま**」との連携を検討

■ TFP（イメージ）

事前打合せ	STEP 01 事前調査	STEP 02 情報提供	STEP 03 事後調査
・ 企業TFPの概要説明	・ 普段の通勤方法等の把握	・ GOOD ROUTEの取組、公共交通での通勤方法	・ 通勤方法・意識変化等の把握 ・ 企業全体の実施効果の共有

R8年度の検討事項

- 支線バス沿線の大型商業施設等を対象に、**協力を要請**
- 賛同施設と連携し、**年末年始等の一定期間での実施を検討**

公共交通全体の利用促進策（案）

R9年10月実施
に向けて準備

7 決済環境のICOCA等全国交通系ICカードへの統一と 定期券のWEB購入サービスの導入による利便性向上

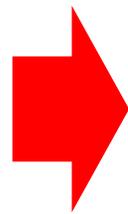
- 現在、ハレカが中心となっている路面電車・路線バス・支線バスの決済環境を全国各地で相互に利用可能なICOCA等全国交通系ICカードに変更することで、**鉄道・路面電車・路線バス・支線バスの決済環境を全国交通系ICカードに統一**する。
- これにより、**定期券のWEB購入が可能**となり、**利用者が窓口に出向く負担と、窓口や運転手の業務負担の軽減**を図る。

R8年度の検討事項

- 新型運賃箱へのリプレース（旧式のみ）
- 車載機器、運用端末、NW機器等の調達
- 車載器ソフト開発・精算システムの構築
- 移行期間や広報計画の検討 など

■ 現状の決済環境

		J R	路面電車	路線バス・支線バス			
				岡電 両備 下電	中鉄 宇野	八晃	備北 北部
ハレカ 	定期	×	●	●	●	×	×
	非定期	×	●	●	●	●	×
ICOCA等 全国交通系IC 	定期	●	×	×	×	×	×
	非定期	●	●	●	×	×	×



■ 目指す決済環境

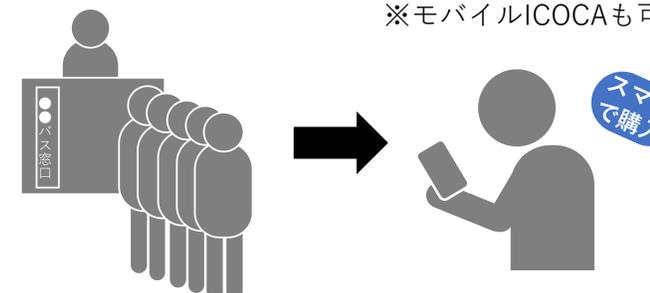
01 全ての路線バス・支線バスで
全国交通系ICカードが利用可能に



02 定期券2枚持ちの解消



03 窓口に行かなくても
定期券が購入可能に



公共交通全体の利用促進策（案）

R9年10月実施
に向けて検討

8 ゾーン運賃制・金額式定期券の導入と 定期券価格の上限設定による「高頻度・広範囲利用の促進」

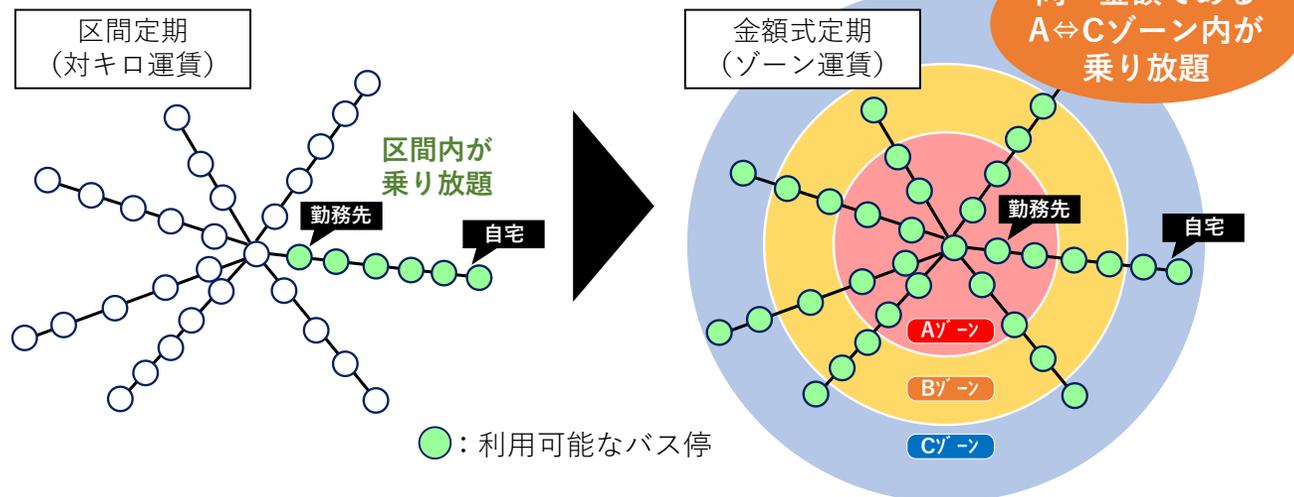
<ゾーン運賃制・金額式定期券の導入>

- 通勤・通学だけでなく、買い物や通院など様々なシーンで高頻度・広範囲の利用を促進するため、新たな運賃体系として、**ゾーン運賃制を導入**するとともに、**定期券を区間式から「金額式」に変える**ことで、**ゾーン内乗り放題**とする。

<運賃設定と定期券価格の上限設定>

- ゾーン運賃制における運賃設定については、都心の運賃適正化で10月に160円に値上げしたが赤字の解消には至らない見込みであり、また運転手確保のための賃上げや老朽化した車両更新などの供給力強化に向けた投資が不可欠であるため、**運賃水準の引き上げが必要な状況**。
- 一方、**利用促進を図るためには、特に中・長距離の定期券価格に上限を設定**するなど、利用しやすい水準に下げることが必要。
- このことから、**定期券の通常価格と上限価格の差額を行政が事業者に補填**することによって、事業者が必要とする収益の確保による経営の安定化とともに、利用しやすい定期券価格に抑制し、利用促進を図る。

■ ゾーン運賃制での金額式定期券のイメージ

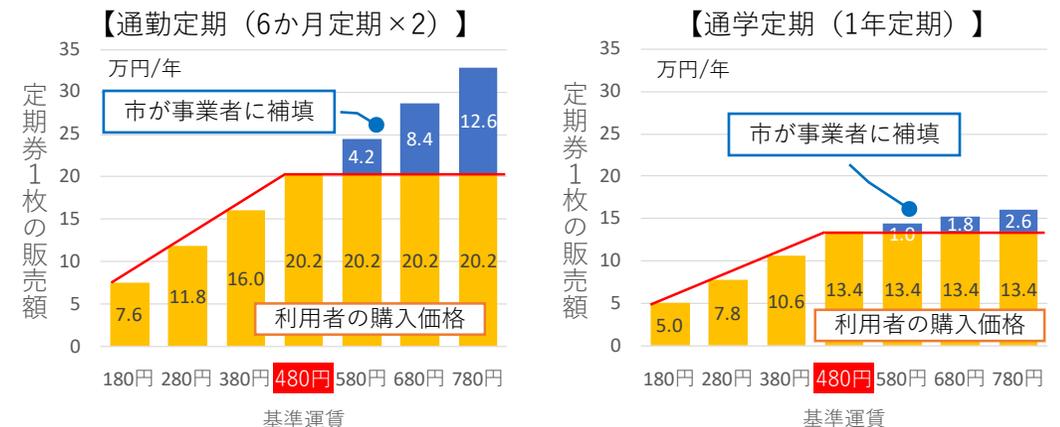


R8年度の検討事項

- 運賃設定、定期券価格、ゾーン境界等
- 精算ルール
(定期券共通化に伴う販売額の配分等)
- 効果的な広報計画の検討 など

■ 定期券価格の上限設定のイメージ

(基準運賃480円を上限に設定した場合のイメージ)



<参考> ゾーン運賃制 (イメージ)

- <適用>
- 岡山市内全域 (ただし、岡山市内での乗降のみに限る)
 - 路線バス (幹線・支線) 及び路面電車

<考え方 (4つのポイント)>

① 初乗り運賃は「現金200円、ICカード180円」

- 路線の維持に向けて、運転手確保のための賃上げや車両更新などの供給力強化のための投資に必要な水準として、初乗り運賃は200円に
- アンケート結果より、200円への値上げは多くの利用者が抵抗を感じるため、ICカード利用時は20円割引することで抵抗感を軽減

② 運賃加算は2ゾーン跨ぎ以降 (100円ピッチ)

- ゾーン境界付近の短い移動が現在より割高にならないよう、2ゾーン跨ぎ以降に加算
- 加算は、分かりやすい・支払いやすい (おつりが少ない) 100円ピッチで設定

③ 定期券を区間式から金額式へ移行 (サブスク導入)

- 同一金額内のゾーンであれば、全ての路線を乗り放題とする金額式定期券を導入し、従来の区間定期より利便性を向上させる
- 事業者間の共通定期券とし、WEB購入の新サービス導入

④ 定期券価格に上限設定

- 中・長距離は上限運賃を設定し、利用しやすい水準を維持
- 高頻度・広範囲利用へ誘導するため、定期券についてのみ上限設定
- 定期券の通常価格と上限運賃の差額は行政が補填し、事業者の経営を安定化とともに、利用しやすい定期券価格に抑制し利用促進

■ 運賃設定

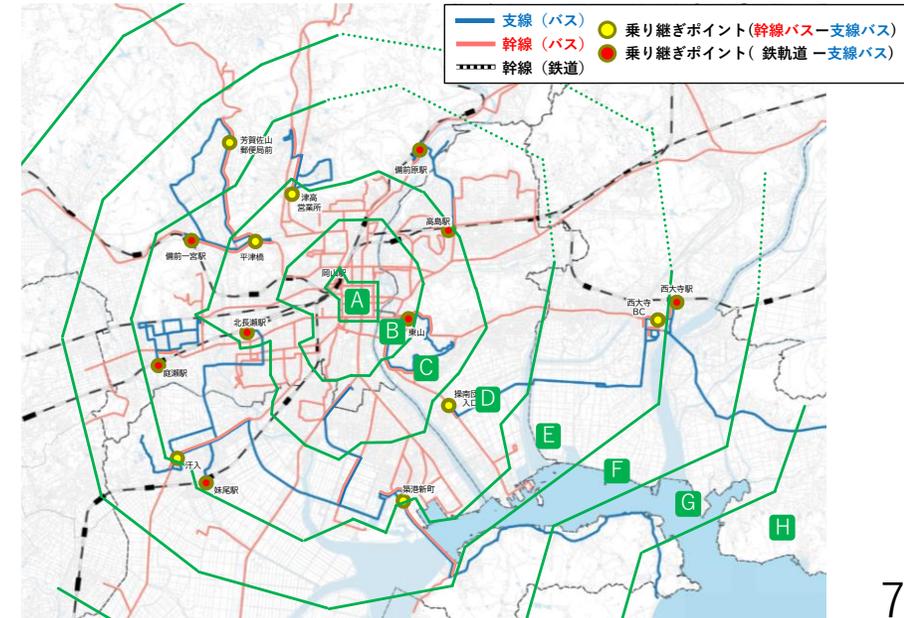
<上段> IC利用
<下段> 現金利用

※路面電車はゾーンA・B (200円均一)

	A	B	C	D	E	F	G	H
A	180 (200)	180 (200)	280 (300)	380 (400)	480 (500)	580 (600)	680 (700)	780 (800)
B	180 (200)	180 (200)	180 (200)	280 (300)	380 (400)	480 (500)	580 (600)	680 (700)
C	280 (300)	180 (200)	180 (200)	180 (200)	280 (300)	380 (400)	480 (500)	580 (600)
D	380 (400)	280 (300)	180 (200)	180 (200)	180 (200)	280 (300)	380 (400)	480 (500)
E	480 (500)	380 (400)	280 (300)	180 (200)	180 (200)	180 (200)	280 (300)	380 (400)
F	580 (600)	480 (500)	380 (400)	280 (300)	180 (200)	180 (200)	180 (200)	280 (300)
G	680 (700)	580 (600)	480 (500)	380 (400)	280 (300)	180 (200)	180 (200)	180 (200)
H	780 (800)	680 (700)	580 (600)	480 (500)	380 (400)	280 (300)	180 (200)	180 (200)

■ ゾーン境界

※事業者の提案 (Eゾーンまで) を参考に、市全域に拡張



< 参考 > 定期券販売額の上限設定（イメージ）

事業者からの提案

■ 基本運賃

	A	B	C	D	E	F	G	H
A	180	180	280	380	480	580	680	780
B	180	180	180	280	380	480	580	680
C	280	180	180	180	280	380	480	580
D	380	280	180	180	180	280	380	480
E	480	380	280	180	180	180	280	380
F	580	480	380	280	180	180	180	280
G	680	580	480	380	280	180	180	180
H	780	680	580	480	380	280	180	180

定期券
販売額

× 2回/日
× 30日
× 12か月
× 0.585

■ 通勤定期券の販売額（1年分）

	A	B	C	D	E	F	G	H
A	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180	244,300	286,420	328,540
B	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180	244,300	286,420
C	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180	244,300
D	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180
E	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060
F	244,300	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940
G	286,420	244,300	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820
H	328,540	286,420	244,300	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820

■ ゾーン境界



480円上限（例）

480円価格に上限設定

480円価格に
上限設定

	A	B	C	D	E	F	G	H
A	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180	202,180	202,180	202,180
B	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180	202,180	202,180
C	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180	202,180
D	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060	202,180
E	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940	160,060
F	202,180	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820	117,940
G	202,180	202,180	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820	75,820
H	202,180	202,180	202,180	202,180	160,060	117,940	75,820	75,820

<参考> 直近の利用促進の取り組み

■ 乗り継ぎ環境の整備「築港新町バス停」 工事中（4月から供用開始予定）

- 幹線バスと支線バス3路線が発着する「築港新町バス停」の乗り継ぎ環境を整備中



《デジタルサイネージ》



(2026/1/22)

■ 動画でのPR YouTube配信(2/3～)

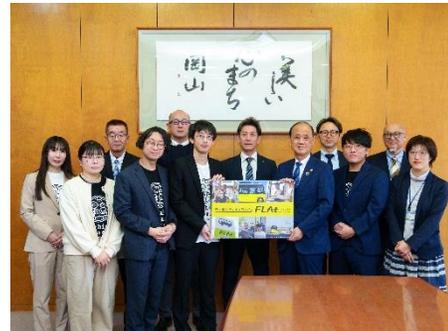
ロングver.



ショートver.



- 岡山市と日本たばこ産業株式会社（以下、JT）との地方創生に係る包括連携協定に基づき、JTが取り組む「Rethink PROJECT」の協賛で、「支線バスFLAtの利用促進」を目的としたショート動画を制作



■ 視認性の高いバス停サインの整備

- 支線バスは、早期の運行開始を求める声があり、簡易な構造のバス停でスタートしたが、「バス停がわかりづらい」とのご意見もあり、トータルデザインに基づく視認性の高いバス停の検討

試験的に整備
(～3月末)

- ①南区役所北
- ②問屋町東

